

ご挨拶



■湘南鎌倉総合病院 院長 塩野 正喜

昨年に引き続きホームページ上に2014年の歩みを報告いたします。

4月1日神奈川県災害協力病院に指定され、45床の増床が認められた。4月スタッフ医師11名、外傷センターに松村福広副センター長、待望の病理診断部に手島伸一部長、小児科に武田義隆部長、脳神経外科に田中雅彦部長が就任されました。後期研修医外部から12名、内部から9名、計32名、臨床初期研修医16名、臨床看護師1名、看護師86名、技術職33名、薬剤師6名、事務系32名の新入職がありました。

2002年フランスで開発された画期的な医療TAVIが実用化され、従来弁置換手術が適応にならなかった高齢者の重度大動脈弁狭窄患者さんに対しても経カテーテル的大動脈弁置換術TAVIによる低侵襲の治療が始められることになりました。TAVIは鼠蹊部から(難治例では開胸直接心臓に穿刺アプローチ)心臓内にカテーテルを送り、大動脈狭窄部をフーセンで拡張し、形状記憶合金製の人工弁を装着するもので高度の技術が要求され、実施時は心臓外科チームが常に手洗いを済ませてスタンバイし問題があればすぐに開胸開心手術可能な体制で行われます。湘南鎌倉

総合病院循環器科斉藤滋副院長が先頭に立ち、当院は国内治験施設4病院に選ばれ、2012年より本邦初の治験の実施、倫理委員会認可での医師個人輸入による実施、さらに2013年10月から認定施設指定の保険診療も始まり2013年12月までに41例のTAVI治療が行われました。徐々に認定施設が増え全国的に実施されていくことになると思われます。

1月消化器内科 江頭秀人部長、7月呼吸器外科 深井隆太郎部長、肝胆膵外科 柏木宏之部長が入職いたしました。

7月京都大学IPSセンターら要請を受け、疾患モデル協力体制が始まりました。

8月には地域の開業医、病院医師向けの内科地域連携会が開かれ、内科診療部の診療情報提供がなされ、懇親を深め病診、病病連携を図りました。

9月にはJCI再受診に向けて、安心安全な品質改善のサイクルを推進すべく、品質改善の部署としてQIセンターが組織され、病院全体の5指標①Sentinel Event低減、②転倒転落率低減、③SSI低減、④退院後6週以内再入院低減、⑤入職後3年以内の離職率低減を選びました。さらに部署ごとのQI指標を定めて、品質改善活動活発化を図ることになりました。また病床有効活用のために、退院調整チームの底上げを図るため、組織横断的な組織として地域総合医療センターを立ち上げました。

9月には厚生労働省ヒト幹細胞臨床研究実施許可をうけた腎臓センター「下肢虚血への自家末梢血CD34陽性細胞移植」が臨床研究を開始し重症仮死虚血への温存療法への効果が期待されます。

11月には15階45床の増床工事が完成し、619床の運用が始まりました。

薬剤部では診療待ち時間改善のため外来診療の院外処方スタートしました。